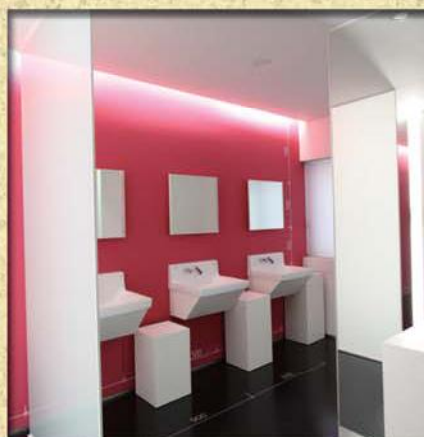


千葉県建築文化賞

第17回表彰作品集



2010年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成22年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、居住環境や建築文化に対する県民の意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的として平成6年度に創設されたものです。

第17回目となる今年度は71点の応募があり、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞3点が選定されました。

授賞作品は、いずれも景観形成や建築文化向上につながるとともに、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に貢献するものと期待しております。

県では、平成22年3月に県政運営の基本となる総合計画「輝け!ちば元気プラン」を策定し、「くらし満足度日本一」の基本理念のもと、県民の皆様が、日本で一番暮らしやすいと感じ、「千葉で生まれ、住み、働けてよかった」と誇りに思っただけの千葉県を目指し、各種施策や取り組みを着実に効果的に推進しているところです。

今後とも千葉県建築文化賞表彰制度をはじめ、諸施策を通じ、次の世代に向けてより一層光り輝く千葉県を築いてまいりますので、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝申し上げるとともに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

平成23年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	コルテ松波	7
第17回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	マザー牧場 まきばトイレ	7
東光電気工事株式会社市川センター	3	千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1:1トイレ	8
新日本製鐵君津製鐵所本館	4	千葉県建築文化賞の選考の基準	8
日本貨物航空株式会社ライン整備ハンガー	5	千葉県建築文化賞の選考の実績	9
竹中技術研究所・耐火実験棟	6	受賞作品の位置	10

第17回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募71点から7点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第17回千葉県建築文化賞は平成22年7月の委員会で募集要領を定め、8月上旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数71点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より3点増加した。依然として厳しい経済情勢の中で、千葉県における建築文化を守り育てている関係者の努力に敬意を表したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで10月下旬から11月中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回は選考の公平性を保つため、委員と関係のある建築物が応募されている場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞3点を表彰候補作品として決定した。結果的に、建築文化賞4点はいずれも規模の大きな建築物となった。委員会としては、規模の小さなものも積極的に評価したいと考えている。今回は応募作品には魅力的な住宅が多くあったが、票が割れたこともあり、建築文化賞には入らなかった。次回以降の応募にさらに期待したい。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		49	5	2	1
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		7	3	—	2
環境に配慮した建築物		15	3	2	—
合 計		71	11	4	3

(総 評)

景観上優れた建築物

景観部門への応募は49点で、昨年度より11点多かった。各種の建築物の他、街並みも新旧7点の応募があったが、今回は残念ながら授賞に至らなかった。

建築文化賞の「東光電気工事株式会社市川センター」は、研修所と社員寮でコの字形に囲まれた中庭を街路に向かって開き、地域の人びとに共有される四季折々の彩りを提供している点が高く評価された。

「新日本製鐵君津製鐵所本館」は、企業のアイデンティティである鉄をデザインと素材の両面に活かし、「大地に浮いたスチール・インゴット」をイメージした力強い形態を実現している。

奨励賞の「コルテ松波」は、築17年のワンルーム集合住宅を改修したものだが、1階に共用スペースを設け、まちに開いたコミュニティの場として活用されている点が評価された。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は7点であり、昨年の12点を大きく下回った。残念ながら今回は建築文化賞の該当作品がなく、奨励賞2点となったが、いずれもトイレであり、はからずも国体開催にあたって県が力を入れた“トイレ美化おもてなし宣言”の趣旨に合致した結果となった。

「マザー牧場 まきばトイレ」は、障害者対応だけでなく、男女双方の乳幼児連れ利用を想定した使いやすいついトイレをシンプルで美しい形態の中に収めている。

「千葉大学工学部10号棟トイレ改修 “スケールを身につける”1:1トイレ」は、建築学科学生へのデザインによる既存トイレの改修であり、壁や床に表示された寸法がユニバーサルデザインの実地教材にもなっている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は15点であり、住宅・公共施設にも省資源・省エネに工夫をこらした興味深い作品が見られたが、授賞は次の建築文化賞2点となった。

「日本貨物航空(株)ライン整備ハンガー」は、ジャンボ機を収容する巨大な整備格納庫の外壁にポリカーボネートを用いるなど、シンプルな手法によって省エネを図っている点が高く評価された。

「竹中技術研究所・耐火実験棟」は、ゼネコンの耐火実験施設であり、耐火炉が生むドラフト気流を利用した自然換気をはじめ、各種の実験的な環境配慮技術を端正なデザインにまとめている。